

3:13 エリシャはイスラエルの王に言った。「私とあなたの間に関わりがあるでしょうか。あなたの父の預言者たちや、母の預言者たちのところに行かれたらよいでしょう。」すると、イスラエルの王は彼に言った。「いや、モアブの手に渡すために、この三人の王を呼び集めたのは、【主】だ。」

3:14 エリシャは言った。「私が仕えている万軍の【主】は生きておられます。もし私がユダの王ヨシャファテの顔を立てるの でなければ、私は決してあなたに目も留めず、あなたに会うこともしなかつたでしょう。」

3:15 しかし今、豎琴を弾く者をここに連れて来てください。」豎琴を弾く者が豎琴を弾き鳴らすと、【主】の手がエリシャの上に下り、

3:16 彼は次のように言った。「【主】はこう言われます。『この涸れた谷にはたくさんの水がたまる。』

3:17 【主】がこう言われるからです。『風を見ず、大雨を見なくても、この涸れた谷には水があふれる。あなたがたも、あなたがたの家畜も、動物もこれを飲む。』

3:18 これは【主】の目には小さなことです。主はモアブをあなたがたの手に渡されます。

3:19 あなたがたは、城壁のある町々、立派な町々をことごとく打ち破り、すべての良い木を切り倒し、すべての水の源をふさぎ、すべての良い畑を石をもって荒らすでしょう。」

3:20 朝になって、ささげ物を献げるころ、なんと、水がエドムの方から流れて来て、この地は水で満たされた。

3:21 モアブ人はみな、王たちが自分たちを攻めに上って来たことを聞いた。よろいを着け

ることができる者はすべて呼び集められ、国境の守備に就いた。

3:22 翌朝早く起きてみると、太陽が水の面を照らしていた。モアブ人は、向こう側の水が血のように赤いを見て、

3:23 こう言った。「これは血だ。きっと王たちが切り合って、同士討ちをしたに違いない。さあ今、モアブよ、分捕りに行こう。」

3:24 彼らがイスラエルの陣営に攻め入ると、イスラエルは立ってモアブ人を討った。モアブ人はイスラエルの前から逃げた。イスラエルは攻め入って、モアブ人を討った。

3:25 さらに、彼らは町々を破壊し、すべての良い畑にだれもが石を投げ捨てて石だらけにし、すべての水の源をふさぎ、すべての良い木を切り倒した。ただキル・ハレセテにある石だけが残ったが、その町も石を投げる者たちが取り囲み、これを打ち破った。

3:26 モアブの王は、戦いが自分に不利になっていくのを見て、剣を使う者七百人を引き連れ、エドムの王のところへ突入りうとしたが、果たせなかった。

3:27 そこで、彼は自分に代わって王となる長男を取り、その子を城壁の上で全焼のささげ物として献げた。このことのゆえに、イスラエル人に対する激しい怒りが起こった。そこでイスラエル人は、そこから引き揚げて、自分の国へ帰って行った。

ヨシャパテが主のみこころを求めたので、主は水を与えることで報いてくださいました。また敵が勘違いをして不利な戦いをしかけてきたのも、人の計画ではなく主によるものです。

モアブの王は偶像の神に王子を焼いてささげましたが、この民の心はこの残酷な邪教によって曇っていたので、王がしたことよりも自分たちを打ち負かしたイスラエルを恨みま

した。創造主にして救い主である主に対する信仰と、偶像とはこれほどの違いがあるのです。偶像異教に妥協したイスラエルの王たちに倣わずに、確かな信仰を歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

